

2023年5月31日

**「明治安田生命 2022 マイハピネス フォトコンテスト」入賞作品決定！
～累計応募数は151万点を突破～**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、2022年9月～2023年1月に募集した「明治安田生命 2022 マイハピネス フォトコンテスト」の入賞作品を決定しました。

明治安田生命 **2022 マイハピネス フォトコンテスト**

1. 累計応募数は151万点を突破

1999年の第1回開催以来、24回目を迎える「明治安田生命 マイハピネス フォトコンテスト」は、「あなたがいる しあわせ。」をテーマに、家族や友人、恋人等との身近にある“しあわせな瞬間（とき）”を撮影した写真を募集する国内最大級のフォトコンテストです。今回は、63,017点のご応募をいただき、累計応募数が151万点を超えました。また、今回から新たに追加した当社公式 Instagram アカウントを通じたご応募は4,329点、MYリンクコーディネーター等（営業職員）を通じたご応募は6,594点と、多くの方からご応募をいただきました。

2. 入賞作品199点を決定！ グランプリ作品は「楽しいね」

写真家の織作 峰子さんや柳瀬 桐人さんらによる厳正な審査の結果、グランプリ作品「楽しいね」（齋藤 彰さま・山形県）をはじめとする、入賞作品199点を決定しました。また、今回から新設した「Jリーグ特別賞」「女子ゴルフ特別賞」「未来世代特別賞」から各5点、「Instagram 賞」から20点、「支社特別賞^(※)」から105点の入賞作品を決定しました。入賞作品や表彰項目の詳細は、「マイハピネス フォトコンテスト」公式ホームページよりご覧ください。（※）支社特別賞は、公式ホームページでの発表はございません。

3. 企業イメージCM最新作を制作中

小田和正さんの歌に乗せ、本コンテスト作品をスライドショー形式でつづっていく、企業イメージCM「風を待って」シリーズの最新作を制作中です。小田和正さんが当社企業イメージCMのために書き下ろしたオリジナル楽曲「風を待って」を使用した当CMは、2023年夏ごろの放映を予定しています。小田和正さんの優しく透き通った歌声が、写真の魅力をさらに際立たせるCM作品にご期待ください。

◆「マイハピネス フォトコンテスト」公式ホームページ

<https://www.my-happiness.com>

◆企業イメージCM／明治安田生命公式ホームページ

<https://www.meijiyasuda.co.jp>

◆明治安田生命公式 Instagram アカウント

<https://www.instagram.com/meijiyasuda.official/>

以 上

【ご照会先】
広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

明治安田生命保険相互会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1



【「明治安田生命 2022 マイハピネス フォトコンテスト」の概要】

<テーマ>

「あなたがいる しあわせ。」

<応募期間>

2022年9月1日(木)
～2023年1月31日(火)



織作氏（写真左）と柳瀬氏（写真右）

<応募数>

総応募数：63,017点

内訳 ■プリント応募：3,061点

（うちMYリンクコーディネーター等を通じた応募535点）

■パソコンもしくはスマートフォン応募：55,627点

（うちMYリンクコーディネーター等を通じた応募6,059点）

■Instagram 応募：4,329点

—審査風景—

<審査員プロフィール>

織作 峰子(おりさく みねこ)氏：写真家。石川県出身。

1982年より写真家・大竹省二氏に師事。1987年独立。

世界各国の風景や人物を、女性らしい視点でとらえ続け、国内外で写真展を多数実施。

2018年・2021年には銀座和光ホール（現 セイコーハウス銀座ホール）にて
展覧会を開催。海外政府観光局から依頼された撮影のほか、テレビや雑誌、講演でも
幅広く活躍中。（公社）日本広告写真家協会業務執行常務理事、大阪芸術大学教授。

柳瀬 桐人(やなせ きりと)氏：写真家。大分県出身。

各企業のポスターや、新聞・雑誌等の広告写真を中心に活動。最近では資源ゴミを
現代アートとしてとらえた作品を、美術館などで発表。また、写真教室の講師や
写真クラブの顧問等でアマチュアの指導を精力的に行なっている。

（公社）日本広告写真家協会会員、（公社）日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員。

<総評>

普段から人が人を思い、愛することのすばらしさ。

何気ない日常にあるしあわせが、今回もたくさん集まりました。

特別な出来事はなくても、しあわせは身近なところにあります。そんなしあわせに気付くことのすばらしさをこのコンテストで感じています。普段そばにいる家族を撮影した一見何でもない家族写真のようであっても、ずっと見ていたくなるような、心が安らかくなるような作品が今回も数多く寄せられました。これからも多くの方が身近な誰かとのしあわせをみつけて、写真として残して行ってほしいと思います。

今回はご高齢の方が多く入賞されました。ハイアマチュアの方が元気に活躍されていることは喜ばしいですね。一方、学生の方の応募が減ったのは残念です。ぜひ先輩方に負けないフレッシュな作品をお願いいたします。

PC やスマホ応募の増加はデジタル時代の流れでしょう。しかし、写真の真の面白さはそこにとどまりません。プリントに仕上げ、ご自身の意図を思い通りに反映させることもできます。そんな楽しさも知っていただきたいと思います。デジタルも歓迎ですが、プリントでの挑戦もお待ちしています。

織作 峰子

<グランプリ作品のご紹介>



「楽しいね」 齋藤 彰 さま（山形県新庄市）

大切に穏やかな時間の流れを感じる作品です。ふたりの会話が聞こえてきそうな臨場感がありますね。黒いテーブルに映り込むカーテンの柄や縦に並んだ色鉛筆を効果的に活かし、美しい構図になっています。柔らかい光がとてもきれいです。

（講評：織作 峰子氏）